

新登録答申文化財概要（三重県）

● 恵日山観音寺観音堂 1件 （津市）

【名 称】 恵日山観音寺観音堂 計1件

えにちざんかんのんじかんのんどう

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県津市大門

【年 代】 昭和43（1968）年

【建築面積】 305 m²

恵日山観音寺は、津市的大门（だいもん）地区にある津観音として信仰を集めている寺院です。本堂であった以前の観音堂は、慶長18（1613）年の完成とされ、大正6（1917）年に国の特別保護建造物に指定されていました。当時は、仁王門を構え、境内の塔頭寺院を含めて41棟が建ち並ぶ大伽藍でしたが、昭和20（1945）年の戦火で全てを焼失しました。

現在の観音堂は、建築史家である村田治郎氏の監修により復元されたものです。建物の構造材や外観は、焼失を避けるための鉄筋コンクリート造となっていますが、内部の小屋組（こやぐみ）や天井などの内装には木が使われています。規模は、焼失前に比べて若干小さくなっていますが、建物外廻りの組物（くみもの）の意匠など、全体によく旧態を伝えており、戦災による復興建築の好例となっています。

境内には、観音堂のほか仁王門や鐘楼なども復元され、市内外からの多くの参拝者が訪れる、津のシンボリック存在として親しまれています。



正面から



以前の観音堂



斜め前から



外陣

新登録答申文化財概要（三重県）

● 旧小渕医院診療棟 等 2件 （津市）

【名 称】 旧小渕医院 診療棟、住居棟 計2件

きゅうこぶちいいん しんりょうとう、じゅうきょうとう

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県津市一志町波瀬

【年 代】 診療棟：昭和 11（1936）年、住居棟：昭和 11（1936）年

【建築面積】 診療棟：111 m²、住居棟：100 m²

旧小渕医院は、一志町波瀬につくられた個人医院で、平成 18（2006）年まで医院として使われていました。敷地の東側には、現在も「小渕医院前」というバス停があり、建物は庭をはさんで敷地の西奥に道路側を入口として建てられています。平屋建の診療棟に二階建ての住居棟が取り付いています。

診療棟は、水色のモルタル仕上げに黒く塗られた縦長の窓を持つ外観など、洋風のつくりとなっています。玄関を上がった場所が待合室となっており、向かって右に受付・調剤室、左に診療室が配置されています。これらの部屋の奥は、廊下によって仕切られた居住部分となっています。

住居棟は、診療棟の居住部分の奥に左側に折れ曲がって接続する2階建て和風の建物です。1・2階ともに南端に座敷や和室が配置されていますが、庭に面して折れ曲がった縁側の付く凝ったつくりとなっています。

旧小渕医院は、洋風の診療部分と和風の居住部分が一体となった、落ち着いた佇まいを今に伝えています。



診療棟外観



診療室



診療棟玄関・待合室



住居棟外観



住居棟2階座敷



航空写真（平成 12 年撮影）

新登録答申文化財概要（三重県）

● 旧倭村役場（ハッレ倭） 1件 （津市）

【名 称】 旧倭村役場（ハッレ倭） 計1件

きゅうやまとむらやくば（はっれやまと）

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県津市白山町中ノ村

【年 代】 昭和11（1936）年

【建築面積】 173 m²

旧倭村役場は、松阪市から奈良県桜井市の初瀬に至る初瀬街道（はせかいどう）に北面して建てられた木造二階建ての旧村役場です。旧倭村は、現在は津市白山町の一部で伊賀との旧国境に位置します。明治22（1889）年に周辺の5村が合併して佐田村となり、明治24（1891）年に改称して倭村となりました。その後、倭村は昭和30（1955）年の市町村合併で白山町、平成18（2006）年に津市の一部となりました。

外観は、下見板張に長方形の窓を並べた簡明な洋風のつくりである一方、懸魚（げぎょ）がつけられた切妻屋根の車寄（くるまよせ）をもつなど、和風の意匠も取り入れられています。一階はカウンター越しに広い事務室があり、奥には村長室や小使室などが配置されています。二階は床張りの議場と畳敷きの控室となっています。村役場の旧態がよく残る建物です。

市町村合併後は倉庫等に使われていましたが、令和2年に民間所有となりました。現在は、クラウドファンディング等によって修理され、町おこしの活動拠点として積極的に活用されています。



正面から



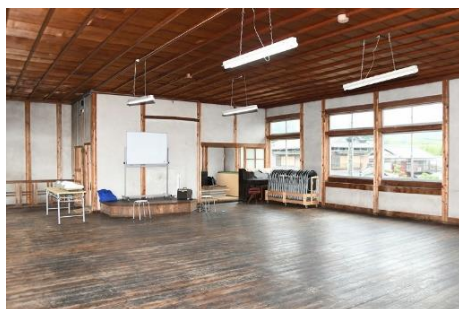
1階カウンター



1階村長室



電話室



2階議場



議場古写真

新登録答申文化財概要（三重県）

● 旧吉田医院主屋 等 3件 （津市）

【名 称】 旧吉田医院 主屋、入院棟、門 計3件

きゅうよしだいいん おもや、にゅういんとう、もん

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県津市白塚町

【年 代】 主屋：昭和 14（1939）年、入院棟：昭和 24（1949）年、門：昭和 14 年頃

【建築面積】 主屋：225 ㎡、入院棟：46 ㎡、門：間口 2.1m

旧吉田医院は、津市白塚町の旧漁村につくられた個人医院で、昭和 49（1974）年に国道沿いに移転するまで診療が行われていました。現在は建物の一部が看護師寮として使われています。

主屋は、和風の玄関棟と居住棟、洋風の診療棟からなります。診療棟は白壁に黒く塗られた窓枠が印象的な洋風の平屋で、待合室・薬室・診療室・レントゲン室があります。居住棟は2階建てで、1・2階ともに「田」字型に配置された落ち着いた趣の和室や洋室があります。

入院棟は、主屋の居住棟と廊下でつながれている和風の平屋です。主屋側に廊下があり、3室の入院室とお手洗い室があり、引違ガラス戸と押し入れを備える簡素なつくりとなっています。

門は1対の石柱の間に渦巻飾りと突針で装飾された鉄製のアーチが架けられ、中央に照明を吊るした痕跡の残る洋風の門で、洋風医院の正門として道沿いの景観を整えています。

旧吉田医院は、洋風の診療部分と和風の居住部分を持つ典型的な洋風医院であり、入院棟と門も備えて地域医療の様子を今に伝えています。



主屋外観



診療室



主屋1階



主屋2階和室



入院棟外観



門（鉄製アーチ）

● 住川家住宅主屋 1件 （名張市）

【名 称】 住川家住宅主屋 計1件

すみかわけじゅうたくおもや

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県名張市新田

【年 代】 明治中期／大正後期改修

【建築面積】 99 m²

住川家住宅は、松阪市から奈良県桜井市の初瀬に至る初瀬街道（はせかいどう）新田（しんでん）宿の南端近くに、街道に面して建てられた茅葺の農家です。向かって左側は土間で、右側は街道側から敷地奥に向けて、格子戸のついた縁側、3部屋の和室、2部屋の和室が配置されています。街道側の奥の間には仏壇と床の間がありますが、現在、床の間は物置となっています。現在の床の間は、大正後期に寝間を改修した下座敷に設けられています。（下座敷は、平成11（1999）年に壁の塗り替えなど内装を改修）下座敷に隣接する茶の間は、3本の溝が切られた差し鴨居など、古式のつくりを伺うことができます。

玄関土間も大正後期に改修されています。昔は玄関から台所まで通り土間で、牛も飼っていたそうですが、現在はその痕跡はなく、台所との間に間仕切りが設けられています。なお、現在も土間からは梯子で屋根裏に上がることができ、小屋組（こやぐみ）を見上げることができます。

住川家住宅は、風情のある茅葺の農家で、街道の宿場町の趣を今に伝えています。



外観



下座敷



茶の間



屋根裏の小屋組